
FLORA KANAGAWA

Jul. 20. 1991 No. 31

神奈川県植物誌調査会ニュース第31号

〒231 横浜市中区南仲通 5-60 神奈川県立博物館内 神奈川県植物誌調査会
TEL 045-201-0926・振替 横浜 3-10195



ヒカゲツツジ

ヒカゲツツジ *Rhododendron keiskei* Miq. は関東以西の湿った岩場に生えるツツジで、4月下旬頃に淡黄色の花をつけます。1958年版植物誌では箱根・丹沢等と書かれていますが、今回の植物誌調査では標本が得られていませんでした。秋山守先生から丹沢の玄倉林道にあるはずだと聞いていたのですが、とうとう見つけることができないうままになっていました。1991年4月29日に秋山先生に案内していただいて、玄倉林道を訪ねたところ守備よく開花したものを見つけました。以外と目立たない植物で注意していないと見過ごしてしまいます。植物誌調査で玄倉林道は何回も通っていたのですが、奥地に入るために足早に通過していた小生の目には入らなかったようです。
(勝山輝男)

三浦半島のミヤマシケシダ

(山本 明)

6月中旬に三浦半島の小網代にでかけてみました。ここは、最近開発か保護かで新聞などにも取り上げられているところです。暑い中をできるだけ枝谷もぬかさないように見て回りましたが、湿地にはつぼみをつけたハンゲシヨウの大群落があり花の時期にはさぞかし見事であろうと思われました。

シダ類はアスカイノデ、ミゾシダが非常に多く見られましたが、ほかのイノデ類はまったくなく三浦の谷には、どこにも多いリョウメンシダもほとんどなくて、小〜中形の株がいくつか認められたにすぎません。1ヵ所、斜面にウラジロの群落がありましたが、全体としてはどこにも見られるような普通品ばかりです。

ところが、小さな枝谷のひとつの湿ったスギ林の下に、たった1株のミヤマシケシダを見つけたときには大変驚きました。まだ、ソーラスもつけていない長さ50cmほどの葉を数枚つけた小株ですが、ミヤマシケシダに間違いなく、念のために科学博物館の中池先生にも御覧にいらして、確認していただきました。これは三浦半島としては極めて珍しいと思われる。私の知っているかぎりでは本種は1951年8月に大谷茂先生が神武寺で採集され、1969年に三浦半島新産として発表されたものだけです。この標本は現在、横須賀市自然博物館にあり(YCM-V 7100)、私も拝見して「神奈川県植物誌1988」のミヤマシケシダの項を書いた記憶があります。分布図には1979年1月1日以前のデータということでZUに△印が打たれています。

ミヤマシケシダは北海道から九州まで広く分布していますが、山地性の種類で低地ではごく少ないものです。神奈川県でも西北部の山地林下にはかなりありますが、ほかには多摩丘陵の一端として多摩区、緑区、旭区、保土ヶ谷区から報告されているにすぎません。

私は以前から二子山の辺りにはあるのではないかと思い、注意していましたが、今回大谷先生の採集から40年後にずっと離れた三浦市に見つかり本種の分布が三浦半島南部にまで広がった意義は大きいと思い報告する次第です。

なお、当日観察した種類は下記の通りです。

トクサ科 スギナ、イヌスギナ
ハナヤスリ科 フユノハナワラビ

ゼンマイ科 ゼンマイ

カニクサ科 カニクサ

ウラジロ科 ウラジロ

ワラビ科 イワガネソウ、フモトシダ、タチシ
ブ、ワラビ、オオバノイノモトソウ、イノモト
ソウ、マツザカシダ

シノブ科 タマシダ (栽培)

オンダ科 リョウメンシダ、イヌワラビ、ホンダ
オニヤブソテツ、ヒメオニヤブソテツ、ヤマヤ
ブソテツ、ベニシダ、ミドリベニシダ、クマワ
ラビ、オクマワラビ、オオイタチシダ、ヤマ
イタチシダ、ミゾシダ、ホソバシケシダ、シケシ
ダ、ナチシケシダ、ミヤマシケシダ、ゲジゲジ
シダ、アスカイノデ、ジュウモンジシダ、ハシ
ゴシダ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ

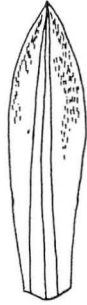
子供の国でスナジスゲを発見

(勝山輝男、北川淑子)

神奈川自然保全研究会で子供の国の生物相調査をおこなっている。筆者らもこれに参加して子供の国の植物を調べている。5月27日に園内を調査した際に湿った畦でスナジスゲを見つけた。スナジスゲ *Carex glabrescens* Ohwi は朝鮮半島から中国東北部にかけて分布するスゲのため、Ohwi (1936); *Cyperaceae Japonica* や秋山; 極東産スゲ属植物 (p.239, pl.245) には載っているが、日本植物誌や保育社原色日本植物図鑑などには出ていない。李昌福; 大韓植物図鑑には図が載っている。全体はピロードスゲによく似ているが、果胞はやや大きく長さ5~6mmあり、粗い毛があるがピロードスゲほど密生せず、嘴は徐々に狭まる。慣れると果胞の形と毛の質と量で区別がつく。雌小穂が互いに接近してつく傾向があるので背の低い個体は生育の良いコウボウシパのような形になる。神奈川県植物誌1988を刊行した直後、栃木県在住の野口達也氏より神奈川県ピロードスゲにスナジスゲが混じっていないか確かめるようお手紙をいただき、あわせて鬼怒川産のスナジスゲの標本を送っていただいた。さっそく神奈川県標本にあたってみたがスナジスゲに該当するものはなかった。県立博物館の標本には栃木県産のものが4点混じっていた。その後、長野県千曲川産の標本を確認している。野口氏はこれまでに岩手県、宮城県、山形県、栃木県、茨城県、群馬県の分布を確認したそうである。スナジスゲは河川の高水敷に生えることが多

い、子供の国のスナジスゲはホタルを飼育している池の畦に生えていたので、あるいは他から持ち込まれたものかもしれない。

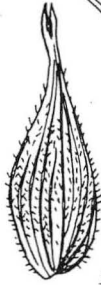
雄小穂の鱗片
(×6)



雌小穂の鱗片
(×7)



雌小穂 (×2.5)



果胞 (×6)

スナジスゲ

	果胞の形	果胞の毛	果胞の長さ	柱頭の長さ
スナジスゲ	嘴は徐々に狭まる	ビロードスゲより少ない	5~6mm	4.5~6mm
ビロードスゲ	嘴は急に狭まる	多い	3.5~4.5mm	2.5~4.5mm

ナカツカナウツギ (コゴメウツギ×カナウツギ) について

(高橋秀男)

1987年6月に中津川溪谷に植物調査に出かけた際、宮ヶ瀬周辺でカナウツギかコゴメウツギか同定の難しい集団を見出した。集団を構成する株の半分ほどは正常な花序と葉をつけるカナウツギそ

のもので、残り半分は葉が小形で花序も貧弱な個体であった。葉が小形で花付きの悪い個体はコゴメウツギとカナウツギの自然雑種と推定されたので、「神奈川県植物誌1988」ではナカツカナウツギと和名だけを新称しておいた。今回、神奈川県立博物館研究報告第20号に詳細を発表したので、その概要を報告しておく。

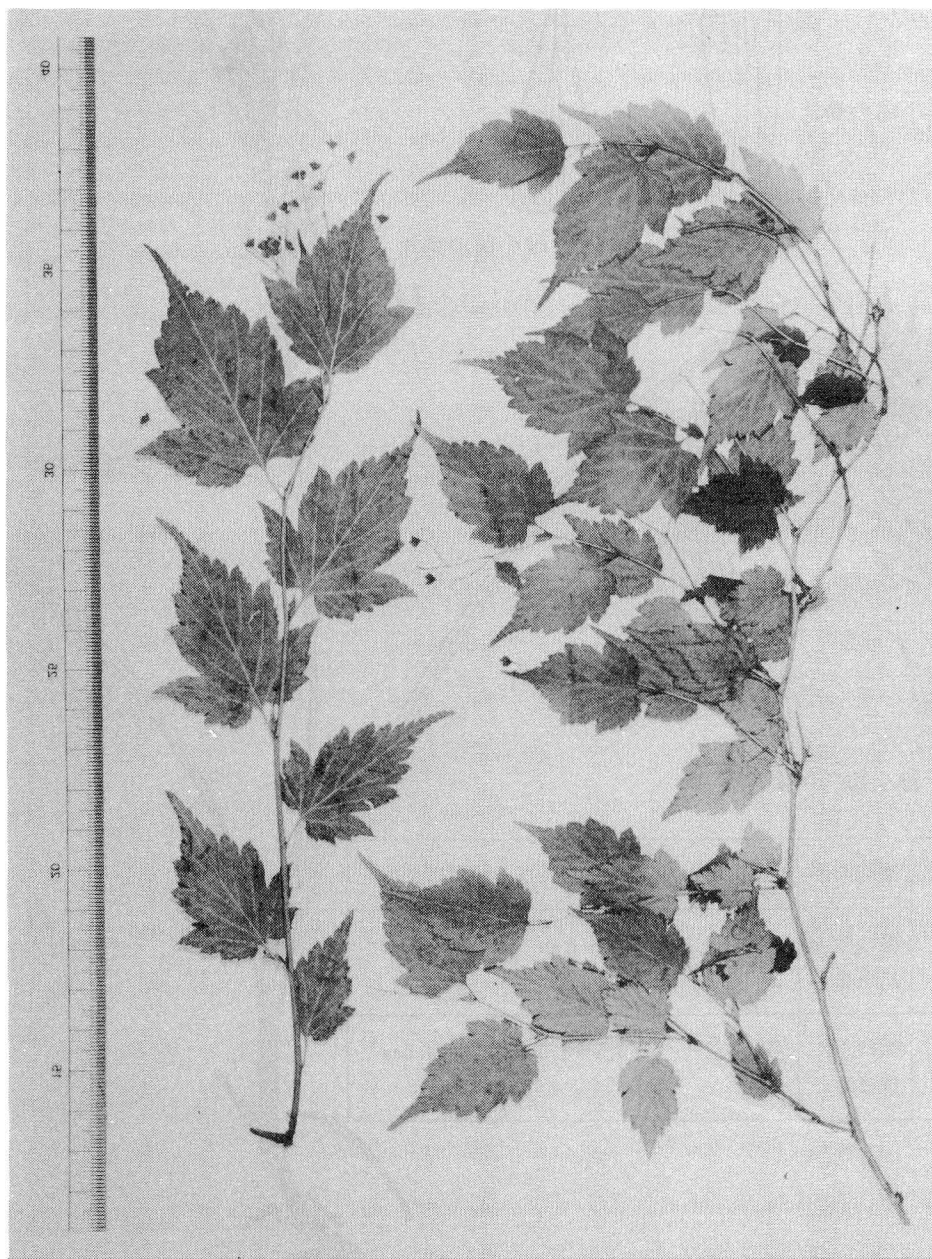


Fig. 4. Holotype of *Stephanandra* × *nakatsu-riparia* in KPM.
ナカツカナウツギの基準標本 (神奈川県清川村中津川産)

Table 1. コゴメウツギ・ナカツカナウツギ・カナウツギの外部形態の比較表

	カナウツギ <i>Stephanandra incisa</i>	ナカツカナウツギ <i>S. incisa</i> × <i>S. tanakae</i>	コゴメウツギ <i>Stephanandra tanakae</i>
葉形 前年枝	広卵形，羽状に浅裂するかまたは3浅裂して，側裂片が発達し，重鋸歯を刻む	広卵形，多くは羽状に浅裂するが，しばしば3浅裂して側裂片が発達し，重鋸歯を刻む	三角状広卵形 羽状に浅裂し，重鋸歯を刻む
本年枝	3浅裂するものと側裂片が浅く2裂，5角形状をなし，頂裂片が羽状に浅裂する	3中裂し，側裂片は2裂または羽状に浅裂し，頂裂片は羽状に浅裂する	3深裂し，さらにそれぞれの裂片は羽状に浅裂する
葉先	尾状鋭尖頭	尾状鋭尖頭	鋭尖頭～尾状鋭尖頭
葉脚	心形または円形	心形または浅心形ときに切形	浅い心形または切形
鋸歯の先	鋭頭	鋭頭～鈍頭	鈍頭またはやや鋭頭
側脈(対)	6～10	5～7	3～6
葉柄の長さ(mm)	10～17	5～8	3～8
葉身の長さ(cm)	6～11.5	4～6.5	2～5.5
幅(cm)	5～7	2.5～4.5	1.5～4.5
托葉			
形	広披針形～卵状皮針形	広披針形	披針形
長さ(mm)	5～12	4～8	2.5～6.5
幅(mm)	3～7	2～4	1～2.5
花序(中津川産)	円錐花序は大形，多花。 1花序当りの花数は53～76個	円錐花序はやや大形。 1花序当りの花数は10～22個	円錐花序は小形，少数花。 1花序当りの花数は6～9個
花径	6～7	5～6	4～6
かく裂片			
形	卵状三角形	広だ円形	広だ円形
先端	鋭尖頭	鋭頭	鈍頭または鋭頭
長さ(mm)	2.0～2.5	1.2～1.5	1.2～1.6
幅(mm)	1.5	1.2～1.5	1.1～1.5
花卉			
形	広卵状だ円形	倒卵円形	倒卵形
長さ(mm)	2.0～2.5	1.6	1.5～2.2
幅(mm)	1.5	1.5	1.2～1.6
雄ずい			
数	20～23	13～19	10
花柱の長さ(mm)	1.5～1.8	1	1
子房(mm)	1.5	1	1
さく果の大きさ(mm)	2～3	2	2

県北津久井の植物2 (承前)

(長谷川義人)

1. ウシタキシソウ *Circaea cordata* Royle

前回、報告(小崎)の後、道志川沿い遊歩道の近くの炭焼き小屋周辺に群生地を見出し採集した。Jun.,10,1990,津久井-3。小崎のメモより1km上流地点である。神植誌に「山北・津久井」の記録のみで標本の所在は明らかでない。なお、先日、Jun.,6,1991 山北町塩沢の大滝(無名?)の前で本種1本を発見し標本とした。山北-7。神植誌の産地は2ヶ所共裏付けられた。

2. ソウシショウニンジン

Panax japonicus C.A.Meyer

f. *dichocarpus* (Makino) Nakai

赤果の頂に黒点のある品種。藤野町佐野川岩楯尾神社社叢にて2株を見た。ここには通常のトチバニンジンもあり、混生する。同地にはアズマガヤが数十株あった。Jul.,22,1990,藤野-1。

3. イヌムラサキシキブ

Callicarpa x shirasawana Makino

本沢ダム上の丘陵、都井沢並びに峰の薬師参道など津久井湖北岸にはムラサキシキブとヤブムラサキが密度濃く混生している。ここではよく調査すると雑種のイヌムラサキシキブがやや多産することが判明した。Sep.,2,1990,城山。

4. オオウラジロノキ

Malus tschonoskii (Maxim.) Schneider

仙洞寺山国有林の西側にある通称「三角山」(三角点がある)山頂部に1本発見した。登実株である。この近く迄県森林公社の皆伐が迫っているので風前の灯である。本種は東北地方でやや普通種となるが県内の株数は極めて少ない。この山はヤマトアオダモ(多)、ウラジロノキ、クロウメモドキがある(Sep.,9,1990)。

5. シギンカラマツ

Thalictrum actaeifolium Sieb. et Zucc.

岩礫地に生え県内では極めて稀産種に入る。津久井湖北岸(Sep.,22,1990)と相模湖北岸小原宿近く(Oct.,6,1990)の2ヶ所で発見した。共にハカタシダが随伴種としてあり、前者産地にはジャコウソウ(地域新産)も発見された。

6. ミカワザサ

Sasa pubiculmis Makino

ssp. *sugimotoi* (Nakai) S.Suzuki

県内では石老山に多産するが藤野町鷹取山参考林にあるものも同じと考えられる。Sep.,23,

1990,藤野-1。同山にはキキョウ、オトコヨウゾメ、ナツハゼ、ハクウンボク、シラカバがある。

7. タチヒガン *Prunus pendula* Maxim.

var. *ascendens* Makino

県内の野生の産は稀であって栃谷西沢に確認した。Sep.,23,1990,藤野-1。小倉山林道(城山町)のものは植栽品の疑いがある。西沢出合にはオオバノキハダ、ヤマミヅソバ、ハルニレがある。

8. サイゴクベニシダ

Dryopteris championii (Benth.) C.Chr.

ex Ching

県北では愛川町に知られるが、相模湖北岸底沢橋近くで1株を認めた(Oct.,6,1990)。香港で記載された暖地性シダである。

9. イワヒメワラビ

Hypolepis punctata (Thunb.) Mett.

ex Kuhn

愛川町志田峠道にあった。県北の記録にはないようである。Dec.,1,1990,愛川。県南西部でやや普通。

10. フタバアオイ

Asarum caulescens Maxim.

藤野町沢井の林下にある。Jul.,22,1990,藤野-1。

11. カラマツソウの一種 *Thalictrum* sp.

勝山輝男氏の発見した一品。アキカラマツ類似種で花期、果期共に早く、瘦果は粘り、砂が付着する。イワカラマツに近い一品と考えられるが花梗などに腺はない。道志川渓谷の岩上にあり、並んでキリンソウ、ツメレンゲがある。高橋・勝山両氏に同行(Jun.,23,1990)。この上の段丘の線にホソバシオデがあった(高橋)

12. ヒトツバハギ

Securinega suffruticosa (Pall.) Rehd.

県内では古相模湾要素の種であって、津久井寺入沢の作業小屋の土手に1株を見た。県内として隔離分布であって自生とは考えにくい、これを植えたとも考えられず由来は不明である。Sep.,9,1990,津久井-3。

13. ササの一種 *Sasa* sp.

藤野町佐野川公民館の上でササの一種を採集した。県内未知のものかも知れない。未だ同定不能でアポイザサやオモエザサなどに近いものと考えられる。Jul.,22,1990,藤野-1。

神奈川県植物誌総会報告

さる4月20日(土)に平塚市博物館において、神奈川県植物誌調査会総会が行われ、約40名の会員が参加しました。当日は平塚市博物館の特別展「タンポポと春の花」が催されており、早めに来て展示を観覧した方も多かったようです。議事に先だって、小崎昭則氏よりサクラ属の見分け方、浜口哲一氏より神奈川県のタンポポについて講演があり、続いて1990年度事業報告と会計報告、1991年度事業計画案と予算案が審議され、決定されました。その際、年々予備費が減少することが問題になりました。会費のほとんどがフロラカナガワの印刷費とその発送費にかかっているため、フロラカナガワのページ数を会費収入に見合った量にすることになりました。

神奈川県植物誌調査会1990年度事業報告

- 1990. 4.15 1990年度総会
(金沢自然観察の森)
- 1990. 5.29 フロラカナガワ28号発行
- 1990. 6.17 野外研究会(丹沢鍋割山周辺)
- 1990.10.30 フロラカナガワ29号発行
- 1991. 3.22 フロラカナガワ30号発行

植物誌残部	昨年度末の在庫	4 3 2 部
	販 売	5 4 部
	雑草研究と交換	6 部
	寄 贈	2 部
	合 計	6 2 部
	今年度初めの在庫	3 7 0 部

神奈川県植物誌調査会1991年度事業計画

1. 継続事業

- ① 分布図の精度を高める
現在神奈川県博保管分の35,000点までパソコンに登録済
東大、科博、都立大などの神奈川県産標本データの登録も少しずつ行いたい
- ② 植物誌の頒布
- ③ フロラカナガワの発行
(年3回、6月、10月、2月頃を予定)
会員以外の購読希望者への販売
バックナンバーの販売
- ④ 合同調査・研究会の開催
野外研究会
講演会

2. 懸案事業

- ① 植物分布図の発行(5年間隔)
- ② 地域フロラの刊行
- ③ 植物写真図鑑(継続して研究)

ります。国土地理院の2万5千分の1地形図にしたがっているため、これに載っていない地名がわかりません。丹沢や箱根の山地では登山用の地図を併用し、市街地では神奈川県道路地図も用いています。それでも見つからないものが結構あります。標本の提出にあたってはできるかぎり2万5千分の1地形図に、丹沢や箱根の山地については登山用の地図に出ている地名を使用して下さい。また、林道や川筋など距離の長い地名も位置が特定できずに困ります。国土基本メッシュは2万5千分の1地形図を100等分したメッシュです。これに落せるように地名を選択していただくと助かります。

◎FLORA KANAGAWA のバックナンバー

- 1~24号 一括5,000円(会員4,000円) ただし、在庫のない号はコピーです。
25, 27, 30号 各1,000円(会員800円)
28, 29号 各500円(会員400円)
26号 300円(会員250円)

◎編集後記

5月末か6月初めに発行する予定が大幅に遅れてしまいました。フロラカナガワの印刷費のことが総会で話題になりましたが、現実には原稿が少なく紙面を作るのに苦労しています。各メッシュ追加標本リストをもっとコンパクトにまとめれば十分にやっているとと思っています。速報、新産地報告、採集記、植物誌にかんするものなど記事をお寄せください。次号は秋の採集シーズンが終った頃、10月月末～11月頃を予定しております。10月10日頃までに原稿をお送りください。

(編集担当 勝山, 北川)

事務局より

◎会員名簿追加



◎地名の記入についてのお願い

分布図の精度を高めるために、標本の産地を約1km四方の国土基本メッシュにしたがって表示することが計画されています(フロラカナガワ26号参照)。そのために植物誌調査で集めた約12万点の標本1点ごとのデータをパソコンに入力しています。現在、県博に保管しているうちの約35,000点が登録できました。横須賀市自然博物館や平塚市博物館の標本データは一部ワープロなどに入力されているので、これについてもデータ変換して、登録できるように準備しています。その後の補充調査でも毎年2,000～3,000点の標本が提出されていますが、この標本は優先してパソコンに登録し、フロラカナガワの追加標本リストとして報告しています。

標本データの登録では、地名を国土基本メッシュに変換するのですが、その際に細地名が地図上のどこにあたるかわからなくて困ることがあ

新産植物速報

オオアザミ *Silybum marianum* Gaert. が南区井戸ヶ谷で採集されました。横浜植物会の鈴木貢平氏より標本が届けられました。オオアザミはヨーロッパ原産で、頭花が直径5cm以上に達する巨大なアザミです。葉の脈が白色の斑になっていますが、これは聖母マリアにミルクを捧げる娘が刺に触れ、驚いてこぼしたミルクと伝えられています。